

研究テーマ：生き生きとした授業をどう作り出していけばよいか

所属 室戸市立室戸岬中学校

氏名 野村幸雄

R G J H 1

1 研究の背景

かつては遠洋漁業の町として栄えていた室戸岬町だが、今や以前の活気はなくなっている。学校にもその影響は現れてきており、全校生徒数も現在では52名と少なくなっている。学校生活やクラブ活動にも元気が薄らいできているのが実態である。

授業では1年生と2年生には活発なところがあって反応も多いのだが、3年生は極端に静かで、授業での反応がどの教科でもほとんどない状態にある。学習したことを定着させるための手だてや、自学力をつけさせるための事前取組などの課題も多くあるのだが、やはり根本となる学習する楽しさを体験させることが急務である。特に3年生の授業を少しでも生き生きとしたものにしていくのが、今回の研究実践の中心である。

2 リサーチクエスチョン

「3年生の授業を生き生きとした授業にするにはどうすればいいのか」

3 予備調査

(1) 授業観察(3年生の特徴)

実に静かに授業を受ける。指示されたことにはまじめに取り組む。周りの様子を気にする。生徒自らが進んで発言することがほとんどない。全体での音読の声が極端に小さい。

(2) 学習意識調査

発音や音読練習の声が小さいのに、生徒は声を出している、取り組んでいるという意識を持っていて、教師側の見方と生徒の意識のずれが大きい。(意識アンケートより)

(3) 英語力をしめすデータ

①CRT検査結果 ②定期テスト結果 ③実力テスト結果

4 仮説設定

ー授業への学習参加を少しでも主体的なものにしていくためにー

仮説**(1)**教科書の音読ができるようになると、授業での声が大きくなるのではないかな。

(2)授業内で全員が英語を使う場面を設定することで、授業への参加意識が生れてくるのではないかな。

(3)単語を効果的に覚えることができたなら、やる気ができてくるのではないかな。

(4)全員で文の仕組みのプリントを読む習慣をつければ、声の大きさも文の仕組みの理解においてもダブル効果が期待できるのではないかな。

(5)授業で音読したことを、個人の宿題で取り組むことで、文の仕組みが整理され、自信になっていくのではないかな。

(6)ALTとの共同授業の工夫で、本来学習者が持っている主体的な参加の部分を生み出していけるのではないかな。

5 計画の実践

(1) 授業始めのウォームアップで全員が関わる英語の活動を作る。(1学期)

(2) 授業内での教科書の音読の全員合格をめざす。

(3) 効果的な単語の覚え方を身に付ける。(フォニックス学習)

- (4) 英語プリント「文型ぶんぶん」の授業始めでの活用（2学期～）
- (5) 「文型ぶんぶん」の宿題での活用（2学期～）
- (6) 授業の改善（10月絵本読み聞かせ、11月発音クリニック、12月平和メッセージ）

6 実践の結果

- ・ウォーミングアップでの英語の活動は、毎時間やることで生徒にやらなければいけないという意識を付けさせた感はある。生徒の実態によっては、日によってうまく活動できずに止まってしまうこともあった。
- ・授業の中に常時**TT**教員を含め、3～4名の教員が関わるので、音読の評価活動がスムーズに行き始めた。教科書を読む練習が始まったら次は読みテスト、という意識が定着してきたので、生徒自らの読みに対する準備ができ始めた。
- ・夏休みの集中取組では、生徒がかなり自主的に取り組んだ。ただこの学習会の終了後、継続した学習がストップしてしまい、もとに戻ってしまった生徒も多かった。
- ・授業の始めは必ず「文型ぶんぶん」の音読からという意識が定着し、声も当初から比べると大きくなったと感じる生徒も増えてきた。
- ・宿題内容をより具体的に指定して取り組みやすくしたため、提出率が高くなった。
- ・日常とは違う内容で今までも取り組んできた**ALT**との共同授業ではあったが、テーマをもっと絞り込んだ内容で取り組むことによって、生徒たちの授業での反応が少し良くなったように感じられる。

7 結果の検証（「生徒の授業を振り返ってのアンケート結果」より）3年生23名

- ・「文型ぶんぶん」を使った音読
役立った（18人）、よく分からない（5人）
- ・授業での発音や音読練習の声の大きさ
（個人）少し大きくなった（11人）、変わらない（9人）、よくわからない（3人）
（学級）少し大きくなった（11人）、変わらない（6人）、よくわからない（7人）
- ・「文型ぶんぶん」を使った練習ノートの活用
だんだん分かるようになった（14人）、あまり覚えたりできなかった（4人）よくわからない（5人）
- ・英語の授業で印象に残ったもの *回答には重複するものあり
（面白かったこと、ためになったこと、興味をもったことがら）
「文型ぶんぶん」の音読（3人）、本の音読（2人）英語の歌（3人）、
ウォームアップの曜日や月などの質問（2人）、**ALT**との共同授業（14人）
*普段の授業（1人）23名中の7名はこの項目については未記入

8 成果と課題

生徒たちと関わり合う場面をできるだけ多くとることを心がけてきた結果、全体の中での反応にはそれほど目立った変化はないが、個々の中で反応が違ってきただけが感じられるようになった。例えば、個人別の音読テストでは自主的に手が挙がって全員が読み出した。

授業の中で、生徒たちが一場面でも主体的に活動できるように、工夫をしながら取り組んできたが、全体的に判断すると、生徒の反応に弱さが残る。今まで習慣化されてきた部分を変えていくのは容易なことではない。

学校全体でも、いろいろな角度から自己表現できる生徒の育成をめざしている。英語科においても自己表現に対する授業改善に今後も取り組んでいきたい。

